

令和4年度生活困窮者自立支援制度人材養成研修

都道府県研修に係る担当者研修（後期研修）


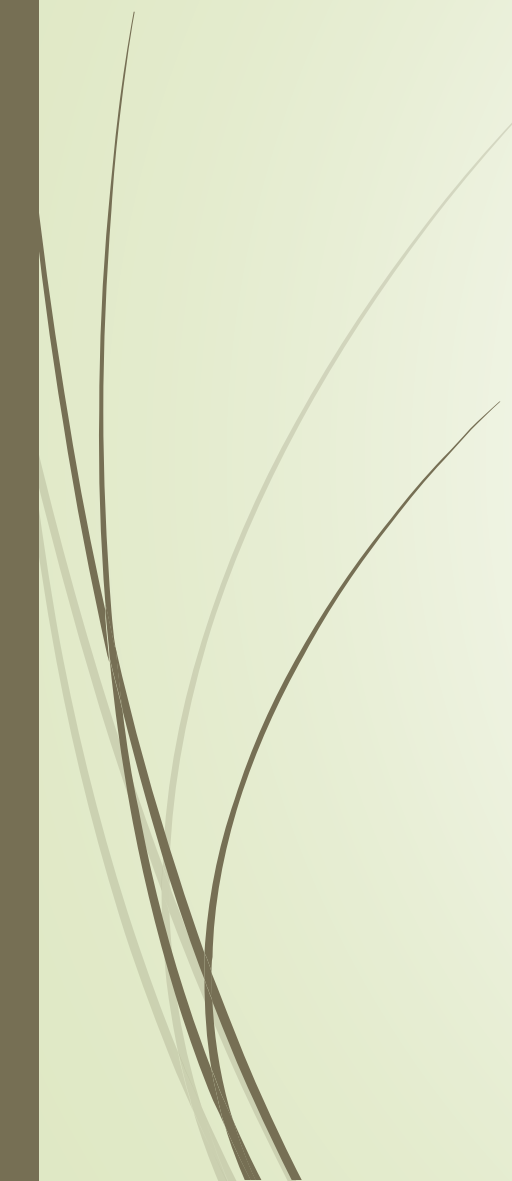
京都府の人材養成研修



京都府の概況

- ▶ 人口：2,550,066人
(R4.11.1日現在)
- ▶ 面積：約4,612m²
- ▶ 市町数：15市（内政令市1市）
11町村
- ▶ 特徴：南北に細長い形の京都府は、そのほぼ中央に位置する丹波山地を境にして、気候が日本海型と内陸型に分かれている。
府庁所在地である京都市に人口約57%が集中している。



- 
- 
1. 研修企画チームの活動
 2. 研修プログラムの作成
 3. 京都府の都道府県研修の様子
 4. 今後の課題

1. 研修企画チームの活動

(1) 検討企画チーム

- ・人材養成研修の後期研修が都道府県に移管される以前から一般社団法人京都自立就労サポートセンターに京都府の従事者研修を委託していた。
- ・後期研修が都道府県に移管された事により、京都自立就労サポートセンターを中心として研修企画チームを立ち上げた。

【構成員】

(企画検討委員)

市職員、府保健所職員

(アドバイザー (立ち上げ時のみ))

外部有識者 (大学教授)

(事務局)

京都自立就労サポートセンター職員、府担当者

(2) 企画検討チームの活動

- ・企画検討委員会の開催 (年1～3回)
- ・研修会講師、グループワークファシリテーター (主任相談支援員等)
- ・講師依頼

(3) 研修企画のために話し合ったこと

① 京都府研修の実施の検討

- ・生活困窮者自立相談支援事業に関係する職員を対象
- ・実施回数：初任者研修 1 回、従事者研修 4 回
- ・令和 4 年度生活困窮者自立支援制度人材養成研修（主任相談支援員・相談支援員・就労支援員）の後期研修としては従事者研修 4 回開催の内の 3 回の参加またはブロック研修への参加の希望制
- ・従事者研修は後期研修の時間数を満たす必要があるが、府内全域では遠い地域もあり、開始時間をあまり早く出来ない。
- ・ 1 回の研修に講義、講義と関連したグループワーク（演習）の時間を設けるため、途中で退出するのは望ましくない。
- ・受けやすい日程にする必要があるので、4 回開催の内の 3 回参加又はブロック研修受講の選択制とした。
- ・修了証発行の基準の作成

② 研修内容の検討

（講義）

- ・制度や理念についての回を必ず入れる。
- ・受講したい内容等についてのアンケートを毎回取っており、希望に沿った研修の検討。

（グループワーク）

- ・なるべく集合研修で実施し、研修に参加する事により従事者同士の交流の場としたい。
- ・新型コロナウイルスの感染防止対策として、広い部屋で実施するとともに、消毒液の設置、マスク着用の徹底。

2. 研修プログラムの作成

(1) 会場・日程の決定

- ・京都府は南北に長い事から、会場は京都市内の京都テルサで開催
- ・新型コロナウイルス感染症の対策より大部屋を取る必要があるため、部屋の空いている日で日程を決定

(2) 内容の決定

- ①毎年、テーマを決める際に検討企画チームで話し合い、その時々にあったテーマ、アンケートの結果を踏まえたテーマ、今まで取り扱っていないテーマなどを踏まえて候補を挙げる。
- ②演習の手法について検討する。
1日の研修で講義と演習を組み合わせる実施
都道府県研修のための手引きや検討企画チームのメンバーが今まで受けた研修などを参考に考える。
- ③テーマの候補から委託先の担当者や市の担当者のコネクションにより委託先より講師を依頼。

・令和3年度の研修

7月2日(金) 10:00-16:00	【演習】10:10-12:00(110分) ○文化の異なる相手(Yチャートを使って今後につなげる)	進行:一般社団法人京都自立就労サポートセンター ファシリテーター:委員	京都テルサ 大会議室
	【講義】13:00-15:40(150分) ○伴走型支援(つながり続ける支援)	認定NPO法人抱樸 理事長 奥田知志	
	【演習】15:40-16:00(20分) ○振り返り(講義の受講前と比較する)	進行:一般社団法人京都自立就労サポートセンター ファシリテーター:委員	
1月18日(火) 10:00-16:00 (新型コロナウイルス感染拡大の影響により9月10日より延期)	【講義】10:10-12:00(110分) ○社会資源を活用した相談支援の方法(任意事業等)	舞鶴市生活支援センター 所長 日柴喜俊暁	京都テルサ 大会議室
	【講義】13:00-14:50(110分) ○事例検討(事例を基に、プラン作成の実務)	京丹後市寄り添い支援総合サポートセンター 主任 藤村貴俊	
	【演習】15:00-15:50(50分) ○振り返り(グループワーク)	一般社団法人京都自立就労サポートセンター 主任 高橋尚子	
11月2日(火) 10:00-16:00	【演習】10:10-12:00(110分) ○ワールドカフェ(民間であつたらいいサービスについて)	進行:一般社団法人京都自立就労サポートセンター ファシリテーター:委員	京都テルサ 大会議室
	【講義】13:00-14:50(110分) ○地域連携(府内支援機関紹介:5団体)	京都府男女共同参画センター、京都府労働相談所 京都弁護士会、京都自立就労サポートセンター 株式会社ICL	
	【演習】15:00-15:50(50分) ○交流会(ブースを設置して、5団体と個別相談や意見交換)		
12月16日(木) 10:00-16:00	【講義】10:10-12:00(110分) ○重層的支援体制整備事業について(考え方と実務)	長久手市役所地域共生推進課 地域共生推進監 國信綾希	京都テルサ 大会議室
	【講義】13:00-14:50(110分) ○生活困窮者支援と地域づくりの意義(関係者や機関との協働)	大阪公立大学 准教授 菅野拓	
	【演習】15:00-15:50(50分) ○振り返り(グループワーク)	進行:一般社団法人京都自立就労サポートセンター ファシリテーター:委員	

〈アンケート調査〉

○今後どのような研修をのぞみますか。（R3年度研修の中でアンケート）

希望する研修	第1回	第2回	第3回	第4回	計
寄り添い型相談支援	11	5	3	6	25
家計相談支援	5	5	5	3	18
就労準備支援事業	6	4	5	4	19
一時生活支援事業	1	3	2	1	7
ひきこもりへの対応	5	10	9	9	33
ひとり親への対応	3	3	3	1	10
高齢者への対応	2	3	3	1	14
障害者への対応	4	6	4	3	17

希望する研修	第1回	第2回	第3回	第4回	計
ホームレスへの対応	1	1	0	1	3
刑余者への対応	2	3	4	2	11
居住支援	3	2	1	2	8
自立支援制度の今後の展開	5	6	3	7	21
他都府県の先進的取り組み	8	5	7	6	26
プラン作成の実務	7	2	2	6	17
支援調整会議の運営方法	4	3	2	4	13
庁内連携・専門職連携事例	3	5	0	3	11

- ・ひきこもりへの対応の研修の希望は依然多い。
 ・他都道府県の取り組みについてや、生活困窮者制度の改定、寄り添い支援等の希望も多い。

〈アンケート調査〉

○所属する機関で課題と考えること（R3年度研修の中でアンケート）

- ・ 支援対象者の課題が複雑化しており、多機関との連携が必要になるが、ネットワークや資源の把握が進んでいない。
- ・ 人出不足、経費不足
- ・ フードバンクを利用した食糧支援を必要とする場面が増しているが、食料運搬の自動車の確保が難しい。
- ・ 支援におけるアセスメント・評価指標作成、外国人に対する支援
- ・ 世帯丸ごと支える支援の力量up

○研修会についての意見、感想（R3年度研修の中でアンケート）

- ・ 今までと違った視点で考えるきっかけになった。
- ・ 研修会で得た知識を持ち帰って普段の業務に役立っている。
- ・ 他機関、町村と交流することで実際の支援にもつながるので、ネットワークづくりの大切さを感じた。
- ・ 参加者との交流を通してそれぞれ苦労されている話を聞け、参考になった。
- ・ ワールドカフェの雰囲気がいい、気づきがあった。
- ・ 伴走型支援の理解のきっかけとなった。

・令和4年度の研修

7月15日(金) 10:00-16:00	【講義】10:10-12:00(110分) ○希死念慮を持つ方への対応	特定非営利法人自殺対策支援センターライフリンク 副代表 根岸親氏	京都テルサ 大会議室
	【演習】13:00-14:20(80分) ○事例を用いた対応のロールプレイ		
	【講義】14:30-16:00(90分) ○SNS相談対応の基本	NPO法人暮らしづくりネットワーク北芝 池谷啓介氏	
9月 2日(金) 10:00-16:00	【講義】10:10-12:00(110分) ○「千葉県中核地域生活支援センター」の取り組み	中核地域生活支援センターいちほら 所長 大戸優子氏	京都テルサ 大会議室
	【講義】13:00-14:30(90分) ○相談支援の基本	市川市生活サポートセンターそら 主任相談支援員 朝比奈ミカ氏	
	【演習】14:40-16:00(80分) ○事例検討(グループ)	NPO法人ユニバーサル就労ネットワークちば 副理事長 平田智子氏	
10月28日(金) 10:00-16:00	【講義】10:10-12:00(110分) ○就労準備支援事業:沖縄県の取り組み	沖縄県就職・生活支援パーソナルサポートセンター 業務管理責任者 友利大智氏	京都テルサ 大会議室
	【講義】13:00-14:30(90分) ○ひきこもり支援や居場所支援の取り組み	一般社団法人なんらぼ 代表理事 山家由三氏	
	【演習】15:00-16:00(80分) ○私たちの就労準備支援事業を企画する	進行:一般社団法人京都自立就労サポートセンター ファシリテーター:委員	
12月16日(金) 10:00-16:00	【演習】10:10-12:00(110分) ○ワールドカフェ「生活困窮者自立相談支援機関の役割」	進行:一般社団法人京都自立就労サポートセンター ファシリテーター:委員	京都テルサ 大会議室
	【講義】13:00-14:40(100分) ○居住支援とは何か	追手門学院大学 地域創造学部地域創造学科 准教授 葛西リサ氏	
	【講義】14:50-16:00(70分) ○一時生活支援事業:大阪府の取り組み	株式会社ナイス 企画担当 田岡秀朋氏	

3. 京都府の都道府県研修の様子

(1) 事例を用いた対応のロールプレイ (2022.7.15開催)

特定非営利活動法人 自殺対策支援センターライフリンク 副代表 根岸親氏ほか



- とりわけロールプレイは大変役にたちました。大変内容のある充実した研修でした。
- 講義を受けた後に、グループワークで自分の思いや、事業を担当するにあたって各事業所の皆さんから体験談やアドバイスを頂き、大変勉強になりました。貴重なお時間を頂きありがとうございました。
- 自殺対策と生活困窮の相談支援のプロセスがとても似ているところも多く、今年の業務に活かせるところが多いと感じました。SNSと対面での相談ではアセスメントの難易度が全然違うことも改めてよくわかりました。

(2) ワールドカフェ「生活困窮者自立相談支援機関の役割」

(2022.12.16開催)

一般社団法人京都自立就労サポートセンター・研修企画委員



- 講義だけではなく、ワールドカフェでのグループワークもあったことで色々な方の意見や考えを聞くことができとても良かった。
- 相談窓口の広報の仕方についてヒントを得た
- ワールドカフェは初めて経験しましたが、自由に気軽に意見交換ができてとても有意義でした。相談窓口の広報の仕方についてヒントを得た
- 他機関との情報交換をする時間が多くとれたことが良かった。交流することで実際の支援にもつながるネットワークが出来たと感じる。

4. 今後の課題

(1) 研修に対する意識

- ① 研修参加への必要性の考え方
- ② 各市町村での人材育成の考え方
- ③ 前期研修の受講から漏れると受講されない...

(2) 研修会の実施にあたって

- ① 人員体制の問題・・・平日に開催しているが、市町村によっては、人がいないので窓口を空けられない現状
- ② 開催場所の問題・・・研修会場から離れた地域の中には、物理的な距離感が研修参加に対する意欲低下につながっていないか
- ③ 受講対象者の拡充・・・地域づくりや多様な現場のノウハウの共有